ともしび

「だからこそ救う」仏さまのお慈悲

井上直之（釋直道）

今年の冬は厳しい寒さが続きましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。二月には古河市でも雪が降りましたが、その日、こんなことがありました。

娘たちは雪に大喜びして庭で雪だるまを作っていました。しばらくすると、遊び終えた二女が部屋に帰ってきました。しかしいつまで経っても長女が戻ってきません。様子を見に行くと雪だるまの顔が割れてしまい、また一から作り直しているのです。

私は「もう寒いし、風邪をひくから戻るよ！」と強引に長女を家の中に連れ戻しました。すると長女は悲しくてずっと下を向いています。

その姿を見て、私はふと思いました。もし私が同じ小学生、もしくは中学生、高校生だったら、壊れた雪だるまを見て一緒に作り直していたかもしれないと。自分はいつから雪を見て「寒い、風邪をひく」と、損得だけで考える大人になったのだろうかと考えさせられました。

自分が正しいと思っていることを押しつけるよりも、まず、相手の気持ちを考えることが大切だと、長女に教わった瞬間でした。

さて、話は変わり、以前壮年会のメンバーと千鳥ヶ淵での戦没者追悼法要に参加したときのことです。帰りにご飯を食べに行くと、隣の席のお客さんが宗教に詳しいようで、何やら友人と宗派について話しています。

そして浄土真宗を「あれはダメ、誰でも救われるなんていう軽い宗教……」という言葉が耳に入りました。

確かに、誰もが平等に救われるというのは、理不尽だと思う人がいるかもしれません。

しかし、親鸞聖人は愚に禿と書いて、自らを「愚禿親鸞」と名のられました。なぜなら、私たちはどんなに努力しようが生身の人間である以上、欲望や執着などの煩悩を断ち切れないからです。

そんな私たちを「精進しなさい」と叱るのではなく「だからこそ救う」という仏さまのお心を聖人はお示しになったのです。

そのお慈悲に触れたあるがままの私が照らし出されていくのが浄土真宗のみ教えです。

今年は親鸞聖人御生誕八百五十年、立教開宗八百年にあたり、京都・ご本山では慶讃法要が勤まります。宗願寺は四月に参拝させていただきます。

最近は、ご本山での法要に一緒に参加した懐かしいご門徒さんとのお別れが続き寂しい限りです。

永代経では、あらためて大切な仏縁を深く想いながら、皆さまとともにお勤めさせていただきたいと思います。

初めての入院

釋由真

七十一歳の誕生日となった二月七日午前零時、私は病院のベッドの上で、激痛と呼吸困難に苦しんでいました。前日、右肩の骨折治療のための外来手術を受けたので す。傷の痛みに耐えていたら、血中の酸素濃度低下の警告音が鳴りびっくり。眠りそうになるとそれを何度も繰り返し、看護師さんに「深呼吸してください」と言われたので必死に酸素を吸い込みながら朝まで、まったく眠ることができませんでした。

一月二十六日、築地本願寺での「自死・自殺に向き合う僧侶の会」の「自死遺族の分かち合い」と定例会に参加し、友達と二人だけの楽しい女子会をしての帰り、上野駅のホームでケガをしました。

発車直前の電車に乗り込もうと急いでいたときに、走って来た男性に背後から激突され、転倒。顔面と右肩を負傷しました。

「大丈夫ですか」とその男性に声を掛けられ「大丈夫じゃないかも」と、笑いながら立ちあがって、目の前のドアに駆け込みました。私が乗車したのはグリーン車で、相手の男性は普通車に向かい走って行きました。

シートに座ってしばらくすると、右目の上にピンポン玉くらいのたんこぶができました。その後、右肩を激痛が襲い、大変なことになったと気づいたのです。

私を見て驚いた車掌さんが手配してくださった車椅子が、古河駅で車内に運び込まれました。それに乗って降りたホームには坊守の明寿子ちゃんが待っていてくれて、すごく安心しました。

その後、救急車で古河病院へ。検査の結果、右肩を脱臼、骨折。顔面を強く打ちましたが、脳には異常が認められないとのことでした。

夜だったので、専門の医師はいなかったのですが、診てくださった若い先生が上手に肩をはめてくださり、とても楽になりました。そばにいた救急車の方が「上手ですね」と私に耳打ちしました。

なかなか入らないで苦労する場合があるとか。ラッキーでした。

上野から古河まで、だんだん具合が悪くなり辛かったです。でもその間繰り返し考えていたのは、自分が加害者にならないで良かった、そればかり。私はこれまで、数えきれない程、駆け込み乗車をしてきたからです。

私にぶつかった人は、私が大ケガをしたことを知りません。でも、これからは気をつけることでしょう。「相手を逃がしちゃったの？」とも言われましたが、私が倒れたままでいればその場から離れることはなかったと思います。

私自身も、そのときは「顔やっちゃった」と思っただけで、右肩のケガには気づきませんでした。発車のベルが鳴り、ドアが閉まるまでのほんの数秒のことでした。

二月六日の手術は、ボルト二本で骨折部位を固定し、念のために糸で縛ったと聞きました。現在リハビリに通っています。

肩の脱臼をはめるときやリハビリのとき、力を抜くのが上手だと言われました。「浄土真宗は他力だから、私おまかせするのが上手なの」と、冗談交じりに友達に話しました。

全身麻酔の後遺症か、入院中、佐藤健といい感じになるという、とんでもない夢をみました。なんで三浦春馬じゃないんだろう……と図々しいことを考えて笑ったり。

ご心配おかけしましたが、私はこのように前向きに頑張っていますので、どうぞご安心ください。

（副住職）

♪本願寺音御堂2022

住職のご本山での仕事「音御堂」のネット配信です。スマホやパソコンで見ることができますので、ぜひ、ご視聴ください。

「嘉門タツオと聴く仏教の響き」

と打ち込みます。

住職が嘉門さんにお願いして作られた番組です。テレビでお馴染みの相愛大学学長・釈徹宗師との対談で、替え歌あり、仏教讃歌ありの分かりやすい内容です。

別の方向から仏教について考えることも、新しい視点をいただけると思います。

嘉門さんは奥さまを亡くされたばかり。悲しみを抱えつつもユーモアたっぷりに色々なお話をされています。

住職のご本山での仕事を皆さまに見ていただくことはあまりないので、今回ご紹介させていただきました。

（由真記）

釈徹宗師（左）　嘉門タツオさん（右）

彩弥（さや）と弥那（みな）との日々

井上明寿子

ケガをしたねねと一緒、彩弥（左）、弥那（右）

子どもたちがピアノを習い始めてからずいぶん経ちました。最初はドレミの場所がわからなかった娘たちも、少しずつ上達してきました。

ところがだんだん「楽譜通りに弾く」とか「決まった速さで弾く」など目標が高くなり、両手で弾く曲もあって二人とも壁にぶつかりました。

私もピアノの経験があるので、練習をアドバイスするのですが、このときの反応が姉妹でまったく違うのです。

彩弥は、私が横に座ったりお手本を見せるのを嫌がり、とにかく練習を繰り返してそれでもできないとがっかりして諦めてしまいます。逆に弥那は一緒にゆっくり弾くと喜んで真似をします。ただ、私が隣にいないとすぐに飽きて椅子から降りてしまいます。まだ五歳ということもあるのでしょう。

色々工夫した結果、二人とも少しずつ音楽の楽しさや達成感を感じてくれるようになりました。

誰でも何かを成そうとして行き詰まることはありますし、日々の生活でも大きな問題に直面するときがあります。事態が深刻であるほど、受けとめ方も判断も自分に委ねられるので、身動きが取れなくなることもありますし、時には神仏にすがることもあるかもしれません。

お釈迦さまは「世の人薄俗にして　ともに不急のことを争う」（人は急ぐべきではないことに気を取られ、時に争い、浅はかな人生を送っている）と仰いましたが、私たちがお釈迦さまと同じように悩み苦しみから解放されるのは容易ではありません。

しかし親鸞聖人は「われらは善人にあらず　賢人にもあらず」とお示しになり、だからこそ私たちが救いの対象になるのだということを繰り返し説いておられます。

み教えにはそんな自分と向き合うヒントが無数に散りばめられています。子どもたちのつまずきと解決がそれぞれ違うように、私たちの救われ方も一人ひとり違いますが、たどり着くところは同じなのだと改めて実感しました。

（坊守）

仏教壮年会　第2土曜日　午後6時
仏教婦人会　16日　午後1時半
宗願寺合唱団の練習　第3日曜日　午後1時半

今後の行事について

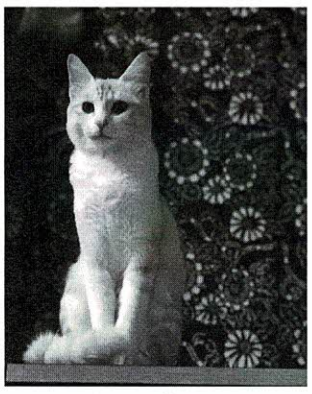
春とともにコロナウイルスの勢いが収まって来たようです。長い間我慢の日々を続けてきましたが、お寺でも以前のように楽しい集いを復活したいと考えています。

宗祖降誕会　4月29日（土）　11時
全戦没者追悼法要　8月15日（火）　18時
恵信尼公法要・敬老会　9月16日（土）　11時

かわいい看護師さん

ケガをして帰宅した夜、7ヵ月になる猫の弥栗（みくり）は、横になった私の顔の左側に正座し、前足でそっと頬に触れたりキスしたり、朝まで寄り添ってくれました。次の日は爆睡して、「みくりちゃん！」と声をかけても眠り続けました。その夜には、私のお腹に乗り、早く治るようにと前足で一生懸命モミモミしてくれました。

私を心配する小さないのち、愛おしい存在です。



おすまし弥栗さん

編集後記

発行が危ぶまれていた寺報「ともしび」でしたが、何とかかたちになりました。

右手が不自由で、パソコンが難しいのです。簡単なお料理はできるけれど、食べるのが大変、今まで元気だったので、何もかも初めての経験です。

今年のお正月は用意した年賀状を出せませんでした。気力がなく、毎年欠かさず贈っていた恩師への手作りケーキも中止。何か変だと自分でも思っていたところのケガ、自らの「老い」を自覚します。

ウクライナでの戦争が始まって一年、ますます状況が悪くなっているようで、何もできない自分が情けないです。チェルノブイリの原発事故の後遺症に苦しむ子どもたちのために、婦人会からバザーの収益金を送り続けたことを思い出します。理不尽な戦争で全てを失った方々のことを忘れません。

暗いニュースが多い中、お寺だけは心落ち着く場所でありたいと思います。いつもご協力ありがとうございます。

合掌

発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
（由美子）
（印刷所・阿部印刷）

宗願寺ホームページ

宗願寺ウェブサイトURL
https://sougwanji.com/